**【実りと活力創造学部】**

**事業実施報告書【有害鳥獣駆除の後継者育成プログラム】**

○日時：　令和５年３月１８日（日）　１３：００～１５：００

○場所：　北広島町まちづくりセンター　きたひろホール

○参加人数：２１名

○内容：

**①講座のねらい**

今年は、3回を予定し、有害鳥獣対策（駆除、侵入防止柵）を地域の負担として受け止めるのではなく、地域に存在する資源（イノシシやシカは本来、自然資源）としてとらえ、これらを十分に活用することで、持続可能で住民が誇れる地域をつくるため講座を行う。

　短期的には、すでにある個人的レベルの取組を支えるとともに、そこから取組に携わる人、取組を理解する人を増やし、関係人口増を図る。

　　 **②講座の内容**

１回、２回の講義をプロジェクターを使用し講師市川氏からふりかえり形式で説明。

今後めざす方向性や課題を参加者と共有した。

北広島町でジビエの解体場を運営されている池田氏から活動内容や思いを伺い

池田氏のような方が北広島町におられることを知っていただき講義を通して地域資源への意識向上と共に「できることからやってみよう」という気持ちを芽生えさせる。

鹿カレーを食べる。

**○トークセッション**

**進行：㈱BO-GA　市川哲生**

**講師：㈱トラスト　池田屋　池田謙一**

北広島町でジビエの解体場を運営している。

　　　　　 （プロジェクターを使って説明）

　　　　　　　講師自身の思いを聞く。

　　　　　　（経験、感情、何を目指しているのかを聞く）

　　　　　　自身が狩猟をする中で命を粗末にできないという使命感が生まれ捕獲した獲物をできるだけ多くの方に

とどけられるよう日々奮闘している。町内の小学校へ鹿肉の提供をしたり、講演もしながら命の大切さを伝えている。

　講師の話を聞いた後、参加者と意見交換。

　　　　　見落としている資源に目を向けて持続可能な獣害対策を検討

　　　　　池田屋の鹿カレーを食べる

【講習のポイント】

講師の話を聞き、受講者がどう感じ、何を思い、学び塾を通じて、機会を提供。

　　　　【コメント】

・関心がない人を巻き込むのが大変

・現場研修をひらいてほしい

・ジビエの解体研修をひらいてほしい

・地元の人が鹿、猪を気軽に口にできる仕組みをつくりたい

・くくり罠の紹介、講習会をひらいてほしい

・里山の魅力発見プロジェクトの実施（里山は宝の山）

・植樹の研修会をひらいてほしい

・松茸林の再生事業、研修会の実施

・若手には時間がない、高齢になると体力がないここをどう解決すればいい？

・チームの作りができるような研修をしたい（高齢者相手でも）

・フェンスの見回り活動をやってみたい

・サル被害の対策研修をおこないたい

・人員のサポートをしてほしい

・大人も子供も元気になれるようなことをしてほしい

・鳥獣監視カメラを町より借り入れしたいとおもいます

・竹の有効活用の研修会の開催

・地場消費を普及することで、命の大切さにもつながり狩猟の理解にもなるのではないか

・お肉とてもおいしかったです

【講座実施においての課題】

４回目（来年度）

令和４年度の学び塾参加者の方から要望の多かったものを実行していく。

前提に参加者、主催側も楽しく取り組める講義にしていく

鳥獣被害対策に係わる人口を増やす

【写真】

　　